

**【グループ1 シナリオ】**

テーマ:〇〇語版「徹子の部屋」を作成しよう

レベル:3

実施期間:週1回15週

ペア:2人で1グループ

<場面状況>

大学で〇〇語を専攻する2年生は、後期の授業で「徹子の部屋」のようなインタビュー番組を〇〇語で制作することにした。インタビューを受けるゲストは、有名人、共通の知人になりきりも認める。成績は学生同士の作品に対する相互評価の割合が大きいことを予め伝えてある。また、作品は後輩および留学生に見せることも案内してある。

<活動の流れ>

授業は全15回

第1週はペアを決め、司会者・ゲストの役割を決める。その後「徹子の部屋」を見て、技法について観察する。学習管理ソフトの紹介と登録を行う。最終の第13, 14週は作品鑑賞会にあて、第15週にフィードバックを行う。

第2週は、ゲストの人物像を決定し、話題について話し合う。なお話題については、教員から、「日常生活」、「自分と身近な人々」「趣味と遊び」について含めるよう指示する。具体的な話題については学生が設定する。授業後には、話し合いの結果を簡単に発表し、ふりかえるとともに共有する。

第3週以降は、授業の前半(45分)を使い、〇〇語のインタビュー番組の観察をおこなう。観察を通じてインタビュー方法、会話の切り出し、会話の展開、会話の終わり方、話し言葉、イントネーション、発音等の自然さ(流暢さ)について学習する。また自己紹介ではなく他己紹介であることに注意させる。また、〇〇語のインタビュー番組の文字起こし資料を渡す。授業の後半(45分)では、ペアごとにインタビューの内容を具体的に検討し、台本作りは7~8回目まで断続的に行われる。教員は各グループを回りながら質問に答えたり、相談に乗ったりする。なおこの間、毎週学習管理ソフト上で、グループごとに作業の進行状況を報告し、他のペアの活動状況をチェックする。また教員が学習管理ソフトで活動状況チェックしていることを伝える。

第7週目で台本の骨格を固める。この後も台本は学生による改訂が続くが、常に最新版を学習管理ソフト上にアップしておき、どこからでもアクセスできるようにする。また、教員のほか周囲の韓国語話者の助けを得て、台本のチェックを受ける。

第8週目で、一度数分録画したものをアップする。教員からコメントをつける。また、映像編集ソフトウェアを紹介する。

第9週目以降は、録音作業を通じ、韓国語がセリフとして適切かどうか、例えば書きことば的であるとか、

## 外国語学習のめやすマスター研修\_2014夏\_G1プラン

作成者: 胡玉華(中)/阪上彩子(日)/松崎真日(韓)/森内悠佳子(仏)

語順が自然ではない、相手に敬意を払ったインタビューを行えているか、応答できているかなど評価を行う。この頃から、字幕やバックミュージックの挿入をはじめとした映像編集の作業を始める。

第10週までに、台本を完成させ、学習管理ソフトに提出する。第10週の授業では、教員がチェックした台本を返し、フィードバックする。最初の場面に字幕および音声をつけてみる。

第11週、第12週は、撮影および編集の時間にし、完成度を高める。教員は発音指導などを行う。

第13, 14週目で、授業参加者全員で完成作品を鑑賞し、感想を述べるとともに、相互評価を行う。また留学生を招待し、「徹子の部屋」を紹介したうえで、学生の作品にコメントをもらう。

第15週目は、教師がフィードバックをおこなう。フィードバックは文法的なものから音声、社会言語的、文化的なもの、動画の編集にまで及ぶ。

氏名: 胡玉華、阪上彩子、松崎真日、森内悠佳子

単元案名: ○○語版「徹子の部屋」を作成しよう

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<p>【日常生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の過ごし方についての表現がわかる(3a)</li> <li>・仕事の経験についての表現がわかる(3b)</li> </ul> <p>【自分と身近な人々】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなこと、経験、人生計画や目標についての表現がわかる(3b,3c,3d,3e)</li> </ul> <p>【趣味と遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなこと、趣味についての表現がわかる(3b,3c)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その国の有名な人について知る</li> <li>・身振り、手振り、表情の相違点がわかる。</li> <li>・着こなしがわかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像編集の方法がわかる</li> <li>・海外の情報収集の方法がわかる</li> <li>・グループ方法を使用した学習方法がわかる</li> </ul>
できる	<p>【日常生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の過ごし方について聞いたり、答えたりすることができる(3a)</li> <li>・仕事の経験について聞いたり、答えたりすることができる(3b)</li> </ul> <p>【自分と身近な人々】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなこと、経験、人生計画や目標について聞いたり、答えたりすることができる(3b,3c,3d,3e)</li> </ul> <p>【趣味と遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなこと、趣味について聞いたり、答えたりすることができる(3b,3c)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身振り、手振り、表情をまねることができる。</li> <li>・着こなしや衣装をまねることができる。</li> <li>・その国の有名な人について語ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像編集ができる</li> <li>・海外の情報収集ができる</li> <li>・共同で作業し自分の役割を遂行することができる</li> <li>・グループウェアを活用し学習を進めることができる</li> </ul>
つながる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成発表会で留学生にフィードバックをもらう。</li> </ul>	
三連携	関心、意欲、態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストの人物像を決定する</li> <li>・教師やクラスメートがコメントをする</li> <li>・グループウェアを使う。</li> <li>・教員もクラスメートも学習の進展状況が把握できる</li> <li>・後輩や留学生に作品を見せる</li> </ul>	
	他教科との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報(処理)</li> <li>・技術、美術</li> <li>・映像編集</li> </ul>	
	教室外のヒト、モノ、情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後輩</li> <li>・留学生</li> </ul>	

## 目標の要素分解

個々のタスク	小目標	中目標	大目標
毎日の生活における自分なりの過ごし方や工夫について説明する	インタビューの内容（日常生活、自分と身近な人々、趣味と遊び）を〇〇語で表現できる	インタビュー番組の台本を書く	〇〇語版「徹子の部屋」の台本と番組を作成し、「日常生活、自分と身近な人々、趣味と遊び」を語る自己紹介・他己紹介ができるよう
仕事の経験について説明する			
経験、人生計画や目標について質疑応答ができる			
好きなこと、趣味について聞いたり答えたりする			
形成的評価（ペーパーテスト）：成績に含める			
司会者やゲストの役割を理解し、それにふさわしい言語表現を練習する	インタビュー番組での役割を理解する		
ゲストの出迎え方を練習する	インタビュー番組の構成を理解する		
ゲストを紹介し、話を聞き出し、まとめる			
話題転換の練習をする			
番組の終え方を練習する。			
形成的評価（授業中作成した台本を評価）：成績に含める			
〇〇語のインタビュー番組のセリフを抜き出し、練習・発表する。（発音・イントネーション）	セリフを聞き取りやすく発声することができる。	インタビュー番組の動画を作成する	
自分たちで演じ、発音・イントネーションを改善する。	非言語的要素を〇〇人のように使用することができる。		
〇〇語のインタビュー番組を観察し、非言語的要素を発見する。			
〇〇語のインタビュー番組を観察し、非言語的要素を真似る。			

外国語学習のめやすマスター研修\_2014 夏\_G1 プラン  
 作成者: 胡玉華(中)/阪上彩子(日)/松崎真日(韓)/森内悠佳子(仏)

<p>○○語のインタビュー番組の非言語的要素とセリフを組み合わせて練習する。</p> <p>自分たちの映像を確認し、改善する。</p>			<p>にする。</p>
<p>○○語のインタビュー番組を見て、笑顔による出迎え、間の適切な使用、言語的・非言語的行動による反応、ゲストに対する感謝を観察・発見する。</p> <p>○○語のインタビュー番組のその場면을練習する。</p> <p>自分たちの映像を確認し、改善する。</p>	<p>インタビュー番組として適切に協力的なやりとりができる。</p>		
<p>形成的評価（8週目にアップした動画を評価）：成績に含めない</p>			
<p>編集ソフトの使い方を学ぶ。</p> <p>編集ソフトを使用し、字幕や音声をつける。</p> <p>時間に合わせて編集する。</p>	<p>決められた時間内のインタビュー番組の編集を行うことができる。</p>		
<p>【総括的評価】</p>			

指示文:○○語版「徹子の部屋」を作成してもらいます。自己を語るゲストと、他者の話を引き出す司会者の10分以内の番組を撮影してください。そのための台本を作ってください。話題には①日常生活, ②自分と身近な人々, ③趣味と遊びの3点を含んでください。

作品	目標以上 4	目標 3	もう少し 2	がんばろう 1
発音・イントネーション等	発音は正しい。声の大きさや速度は適切で、聞き取りやすい	声の大きさや速度は適切で、聞き取りやすいが、発音に間違いがある。	発音に間違いがあったり、声の大きさや速度は不適切であったりするが、聞き取りに支障がない	発音に間違いがあったり、声の大きさや速度は不適切であったり、聞き取りに支障がある。
パフォーマンス	ジェスチャー、視線、表情が自然である。まるで○○人のように表現しており、視聴者を惹きつけるおもしろさがある。	ジェスチャー、視線、表情を意識している。○○のように表現すべく努力しており表現力があり、見ていておもしろい。	ジェスチャー、視線、表情への気配りが不足している。○○人のように表現すべく努力したが、表現力に欠ける。	ジェスチャー、視線、表情、演技への配慮がない。
やりとり	司会者とゲストのやり取りにおいて、笑顔による出迎え、間の適切な使用、言語的・非言語的行動による反応、ゲストに対する感謝が示されていて、自然で協力的なやり取りが行われた。	司会者とゲストのやりとりにおいて、多少の不自然さや反応の不足等があったが、全体的には自然で、協力的であった。	司会者とゲストのやりとりにおいて、協力的であろうと努力したがそれが自然さにはつながらなかった。	司会者とゲストのやり取りにおいて、協力的であろうとする努力が不足していた。
編集作業	8分以上10分以内で、無駄な映像がない。字幕や音響効果が適切な量入っており、完璧な編集作業が行われている。	7分以上12分以内で、無駄な映像が入っておらず、字幕や音響効果が入っていて、編集により見やすさに配慮された。	5分以上15分以内で、無駄な映像が少し入っているものの、字幕や音響効果も少し入っていて、編集により一部見にくさが生じてしまった。	映像が5分未満もしくは15分以上で、無駄な映像が多く、字幕等が入っておらず、編集作業がされていない。

指示文:○○語版「徹子の部屋」を作成してもらいます。自己を語るゲストと、他者の話を引き出す司会者の 10 分以内の番組を撮影してください。そのため  
 の台本を作ってください。話題には①日常生活, ②自分と身近な人々, ③趣味と遊びの3点を含んでください。

台本	目標以上 4	目標 3	もう少し 2	がんばろう 1
文法・語彙・表現	文法・語彙・表現は正確である	文法・語彙・表現はほぼ正確である	文法・語彙・表現に間違いがあったが、理解に支障はない	文法・語彙・表現に間違いが多く、理解に支障がある。
内容の適切さ	①日常生活, ②自分と身近な人々, ③趣味と遊びの3点を含んでいる。	①日常生活, ②自分と身近な人々, ③趣味と遊びの2点を含んでいる。	①日常生活, ②自分と身近な人々, ③趣味と遊びの1点を含んでいる。	①日常生活, ②自分と身近な人々, ③趣味と遊びのいずれも含んでいない。
内容の構成	ゲストの紹介、話題の切り出し、質問—答え—反応、話題転換、番組の締めまでにおいて、スムーズにつながることば(導入・つなぎ・転換・終結のことば)を台本に適切に記述している。	導入・つなぎ・転換・終結のことばを台本に記述がされているが、一部で不足があったり、不適切な場合がある。	導入・つなぎ・転換・終結のことばの適切な記述が一部で確認できる。	導入・つなぎ・転換・終結のことばの使用がほとんど見られないか、適切な使用がみられない。
役割の理解	自分たちが司会者、ゲストであることを十分理解し、それにふさわしい言語表現を使用している。ゲストは自分を十分に語り、司会者はゲストの話を引き出す工夫が多数みられる。	自分たちが司会者、ゲストであることを理解し、それにふさわしい言語表現を使用している。ゲストは自分を語り、司会者は他者の話を引き出す工夫をある程度行っている。	自分たちが司会者、ゲストであることを理解しているが、それにふさわしい言語表現が多少つかえている。自分を語る努力をし、司会者も他者の話を引き出す工夫が多少みられる。	自分たちが司会者、ゲストであることを理解しておらず、それぞれふさわしい言語表現を使えていない。ゲストは自分を語らず、司会者も他者の話を引き出す工夫をしていない。